

大森東地区管内人口		
人口	男	10,370人
	女	9,329人
	計	19,699人
世帯数 11,125世帯 (令和8年6月1日現在)		

おむいがし地域情報 いつつのわ

手をつなぐ5自治会

- 大森東自治会 (平林 敏夫 会長)
- 大森東四丁目自治会 (伊藤 音嗣 会長)
- 川端自治会 (江藤 豊 会長)
- 大森南自治会 (平林 茂 会長)
- 森ヶ崎自治会 (野口 多加志 会長)

発行：地域力推進大森東地区委員会 編集：地域情報紙「いつつのわ」編集委員会

【編集委員長】須山 芳明 (大森東四丁目自治会) 【副編集委員長】野口 弘子 (大森南自治会) / 江原 良子 (森ヶ崎自治会)
 【編集委員】田中 文雄 (大森東自治会) / 重政 真波 (大森東自治会) / 福本 享子 (川端自治会) / 平林 典明 (川端自治会) / 魚住 みさ子 (大森南自治会) / 安藤 澄枝 (森ヶ崎自治会) / 伊藤 音嗣 (大森東四丁目自治会) 【事務局】阿部 希 (大森東特別出張所)

大森びと
リレートーク Vol.13

トークテーマ
『大森東地区管内の福祉施設』

地域包括支援センター大森東

大田区地域包括支援センター大森東です。みなさんは、地域の中にお気に入りの通いの場はありませんか。地域包括支援センター大森東でも月に数回、地域の方が参加することができる通いの場を開催しております。その通いの場について紹介をしたいと思います。

まず一つ目は、オレンジカフェ「喫茶ひなたぼっこ」です。認知症のある方でも地域でいつまでも安心して生活することができるよう、ご家族や地域住民等ごなたでもご自由に参加できる通いの場です。

月に1回お茶やコーヒーを飲みながらゆったりと交流をしています。参加者の皆さんと話し合いながら内容を決めるため、

その月によって違ったことが楽しめるのが魅力です。去年はブーケを作ったり、ピアノやクラリネットの音色に合わせて歌を歌ったりしました。参加者からは「普段できないことが経験できる場」として、楽しんでいただいています。わたしも毎月、参加者の皆さんと楽しみながら参加させていただいております。

二つ目は、地域でいつまでも元気で過ごしていただくために「グルービー体操」という体操教室を月に2回行っています。グルービーの意味は、「いかした・素敵な・カッコいい」です。椅子に座りながら簡単なストレッチや脳トレを行います。明るく元気な先生

大森東地区自治会連合会 会長就任のご挨拶

大森東地区自治会連合会 会長 平林 茂 (大森南自治会 会長)

このたび、大森東地区自治会連合会会長に就任いたしました。大森東地区は、近年の話題では、令和元年に大森第四小学校新校舎が落成。令和4年に森ヶ崎緑華園、森ヶ崎海岸公園が開園。令和7年にいっつの水門橋が開通、第12回いっつのわふれあい祭りは過去最多の来場者でした。他方、商店や飲食店が減少し、買い物や食事に不便になりました。バスも大森東5丁目行きが路線が変更され、大森東経由森ヶ崎行きになり、大森東5丁目の方は不便になりました。昭和島までの避難橋は人と自転車だけしか通れませんが、車が行き来しやすくなりました。という声も多いのですが、他方で

を外部からお招きして、体操の先生となつていただいています。参加者の皆さんからは、「先生から元気がもらえる」ととても評判がいいです。参加者の皆さんは元気で明るいので、いつも皆さんに元気をもらっています。地域の皆さんと一緒に集まって何かに取り組むことは、とても楽しいです。し、明るい気持ちになることができます。紹介しました「喫茶ひなたぼっこ」「グルービー体操」は、どなたでも参加できますので、少しでも興味があった方は、地域包括支援センターまでお気軽にご相談ください。

道路ができれば都心、千葉方面までつながり通り抜けの車が増加して、周辺に住む人には危険だという声もあります。防火防災に力を入れ、大規模災害時に避難所開設を担っています。秋には防災訓練があります。ぜひ参加していろいろな体験をしてください。新しい住民の方も増えました。様々な地域の行事を通して知り合いの方を増やし、顔の見える関係を作れればいいと考えています。また、自治会や地域のイベントのお手伝いをしていただける「地域行事サポーター」を考えています。ご支援、ご協力をお願いします。

地域の行事

- 7月18日(土) ★大森第四小学校水遊び
- 7月23日(木)、24日(金) ★盆踊り・納涼踊り 浦守稲荷神社 (大森南自治会)
- 7月24日(金)、25日(土) ★貴船神社納涼民謡踊り
- 7月28日(火)、29日(水) ★盆踊り・納涼踊り 大森南四丁目公園 (森ヶ崎自治会)
- 8月22日(土) ★納涼映画会 弁天神社 (川端自治会)

編集後記

今年1月中富小学校で海苔付け体験に参加したと思ったら、地元貴船神社の夏季大祭も終わりました。

あつという間に6月に入ります。いっつのわ7月号は戦争の記憶について紹介しました。大変な時代でした。またリレートークでは地域の福祉施設の紹介を続けています。今回は「地域包括支援センター大森東」です。近頃は気温も高い日が続いております。今年も暑い夏となることが予想されますので皆様健康管理に十分注意し、熱中症にならないようお過ごしください。

編集委員一同

大森東 こども作品館 中富小学校 作品

「大森東こども作品館」第12弾は、中富小学校の作品を掲載しています。児童のフレッシュな作品を皆様ご鑑賞ください。

【不思議な世界】
5年 横山 美波さん

【抹茶ラテ】
6年 伊達 晴さん

【青と黄色の世界】
4年 渡谷 桃果さん

中富小学校開校75周年
マスコットキャラクター
「こがめちゃん」

事務局：大森東特別出張所 (大森南4-9-1 TEL 03-3741-8801)
 バックナンバーはこちら (https://www.city.ota.tokyo.jp/omori/ts_omorihigashi/jouhoushi/index.html)

Fishingnuts Café



前号のグルメマップで紹介しきれなかったお店をご紹介します。



住所:大森東5-9-11-101 Tel:080-4172-0911
営業時間:11:00~終了時間未定 定休日:木曜日



Fishingnuts Café(フィッシングナッツカフェ)へようこそ。ここは、おしゃべりも、勉強も読書も、みんなの「好き」が集まるカフェです。

日常の喧騒から少し離れ、心からくつろげる空間で、丁寧に淹れた一杯をご堪能ください。私たちが大切にしているのは、一杯のコーヒーがもたらす豊かな時間と、心を通わせる心地よい空間作りです。

当店では、カフェ営業に加え、ギターレッスンも併設しております。

「楽器を弾いてみたい」「音楽の楽しみ方を広げたい」「憧れの曲をマスターしたい」といったあなたの「好き」という気持ちを、私達は全力でサポートします。

カフェというリラックスできる場所だからこそ、楽器を学ぶ楽しさはひとしおです。

初心者の方はもちろん、音楽理論を深めたい中級者の方まで、皆さん一人ひとりのペースに合わせて丁寧に向き合います。

「コーヒー、音楽、趣味。心豊かな時間を当店で」皆様のご来店を心よりお待ちしております。

大森東自治会

着任のご挨拶



包括支援センター大森東
所長 加藤 敦子

こんにちは。4月から地域包括支援センター大森東の所長に着任した加藤敦子と申します。私は以前も大森東で勤務させていただいたことがあり、再びご縁を頂けたことに感謝致しております。

地域包括支援センターは大森東特別出張所の2階にある65歳以上の方の大森東地域の総合相談窓口です。また介護予防の教室やイベントの開催、多機関との連携、多世代交流など職員6名で日々職務に励んでいます。皆様、お気軽にご連絡ください。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



大森第四小学校
校長 後藤 眞里

初めまして、こんにちは。世田谷区の小学校からまいりました、後藤眞里と申します。よろしくお願いいたします。大森第四小学校のこどもたちは、明るいあいさつが得意で、にこにこ手を振ってくれます。こどもたちの笑顔に、私も笑顔で手を振り返しています。また、地域の皆様からも声をかけていただけることを、とてもうれしく思っております。これから校長として、こどもたちの笑顔のために精一杯努めてまいります。地域の皆様、引き続き変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。



大森東特別出張所
所長 大森 貴広

4月1日付で所長に着任いたしました、大森貴広(おおもり たかひろ)と申します。皆様には覚えやすい名前と言っていたら、ありがたいです。

着任して日は浅いですが、地域の皆様には大変暖かく接していただき、充実した日々を過ごさせていただいております。

そんな地域の皆様に寄り添う「明るく親しみやすい出張所」として、大森東地区をより良くするために職員とともに尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

戦争の記憶をつなぐ

大森南図書館主催で、地域の方々が参加して行われた「私と戦争」と題した座談会(2024年8月25日)その座談会での、体験談や、お話の中で話題に出たことなどを収めた記録集から、いくつかを抜粋して、原文のままここに紹介いたします。

■終戦の日は、国民学校の1年生でした。3月9日に焼け出され、その年の4月に1年生でしたので、母が風呂敷を黒く染めて、手縫いのセーラー服を縫って着せてくれました。お世話になっていた家は埼玉にありましたが、6畳間に2所帯9人でした。寝るのに大変でした。私の家は父が亡くなっていましたから、3人の子どもをかかえた母は大変だったと思います。母の弟が戦争から帰ってきて21年に東京に戻りましたが、食べるものには大変苦労したと思います。雑草をよく食べました。

■空襲で蒲田糍谷はまる焼けで、駅から大師橋の高い橋げたが見えたそうです。大森も梅屋敷方面はまる焼けで、帰りに余った焼夷弾を落としていったので、大森南には若干落ちたようです。森ヶ崎(南四丁目)にもおちましたが、避難してきた方が、ここが燃えたら逃げ場がないので、協力して消火してくれ、大事に至らなかったそうです。

■戦後の食糧難で、今の5丁目辺り(今の労災病院のあたり)に、米軍の残した残飯がトラックで運ばれてくるのを、バケツをもってみんな待っていた。ダンプカーから捨てられた残飯をもってかえって食べた。日本人が食べていたものとは違うものが食べられる。缶詰も封が開いていないものもあった。誰もおなかを壊したりしなかった。今は飽食の時代で、なんでもすぐ手にはいるが、戦争のときは、寝る場所も食べるものもなく大変だった。

■小学校3年生で学童疎開した。大四小は熱海の旅館だったが、その後富山に移動。お寺で雑魚寝。夕方になって、一人が泣き出すと次々泣き出した。塩のすいもの、どんぶり一膳のご飯。それを「茶碗一つの～おどんぶり一つの～」と歌にして大きな声でベランダで歌って先生に怒られた。(一部省略)

■羽田で夜サーチライトがつく。空襲警報がなるとすぐにB29が東京湾のどこにくる。照明弾が落ちるとパッと明るくなって昼のようになる。落ちると同時にB29が飛んでくるのが怖かった。

■赤坂の山の手は真赤になった。まっ黒の死体がたくさん。リヤカーに荷物を積んで母と二人で逃げた。虎ノ門の方に逃げた人は皆なくなった。防空壕が全部だめになった。母と赤坂プリンスに逃げたから助かった。父親たちは家を守るために自宅に残っていた。お堀にも死体がたくさんあるのをみて家に向かい、永田町辺りで父に会えた。途中の虎屋の焦げた砂糖、乾パンにつけて3~4日それで過ごした。甘くておいしかった。

■逃げる間は防空頭巾を濡らしてかぶっていた。空襲で焼けた人が熱いから皆、川に飛び込んだため、川は死体でいっぱいだった。隅田川もいっぱいだった。

■空襲警報発令で防空壕にはいるのだが、玄関に防空壕があった。防空壕に入った人は蒸し焼きになっていた。ただの穴。防空壕は自分の家のそばに自分で掘る。4、5人は入れるほどの穴。

■DDTのシラミ退治でまっ白になった。衣類がなかったし、洗濯もできなかったから、シラミがいっぱいいた。親が服を火鉢であぶってとってくれた。

■中学に、昭和20年3月に書いた日記の記憶。「昭和20年3月10日東京大空襲。本当に死んだ。B29の大軍が。火を噴きながら雨のように落ちてきた。衣服についた火がたちまち人間を焼く。川に飛び込んだ人。川の水が消えた。何時間、何分経ったかわからない。母ちゃん、熱い熱い。その声の子ども、助けて、助けて。とその声が小さくなった。私は体が動かない。すると声が聞こえなくなった。」これが戦争。私たちの経験を生かしていつてもらいたい。(一部省略)

座談会に参加して、貴重な体験やお話をして下さった皆様、ありがとうございました。

(編集委員 福本享子)

※城南大空襲…1945年4月15日
東京大空襲…1945年3月10日

参考文献：座談会「私と戦争」
大森南図書館(2024) L23オ

